



ふらり らいふらりい



～図書室にはこんな本があります～

No. 145

★利用者からの質問をもとに昭和館図書室の資料をご紹介します。
(書名の後の()の数字は請求記号です。)

問) 戦争中に輸入された「ヌートリア」とはどんな動物なのか。

答) **全資料**→**ヌートリア**→4件

『聞き書 ふるさとの戦争 徴用は山河に及び』(210.75/A53 閉架書棚)

※ ヌートリアの輸入された経緯、現在の問題が紹介されています。

さらに本文中に記載された、当時の呼び名であった「沼狸」で調べてみると

全資料→**沼狸**→1件

『科学知識 第24巻第8号(昭和19年10月)』(405/Ka16/24-8 閉架書棚)の中に「毛皮・肉食獣 沼狸の養殖」(内田清之助)という記事があり、生態、養殖法が詳しく紹介されています。



ヌートリアは昭和14年に、軍服の毛皮の材料としてアメリカから輸入され、戦時中は毛皮や食用として養殖が始まりましたが、終戦とともに屠殺・放逐され、そのうち野性化したものは岡山県を中心に全国に多数が生息しています。田を荒らす害獣呼ばわりされている彼等も、戦争の被害者と言えないでしょうか。

図書室には、書棚に並んでいる図書以外にもたくさんあります。

検索端末を使って、読みたい本を探してみてください。

操作方法等、カウンター職員までお気軽にお問い合わせください。

岸壁の母

1954年(昭和29年)9月、テイチレコードから発売され、菊池章子が歌った歌謡曲のレコード『岸壁の母』がミリオンセラーとなった。

この岸壁とはソ連ナホトカ港からの引揚船が入港する舞鶴港の岸壁のことで、1950年(昭和25年)1月の引揚船の入港から6年間、ソ連軍の捕虜となり、抑留された息子の帰りをこの岸壁で待ち続けた母の様子を唄ったものだ。この曲はその後、1972年(昭和47年)に二葉百合子がキングレコードから浪曲調で吹き込み、さらなる大ヒットとなった。

1945年(昭和20年)8月9日未明、ヤルタ会談密約を背景に、日ソ中立条約を一方的に破棄し、満州・朝鮮半島北部に侵攻したソ連軍は、日本軍人や軍属及び一般邦人らを不法拘留し、強制収容所に抑留した。その数57万5千人と推定されている。

収容所はシベリアを中心に、極東地域、外蒙古(現モンゴル)、中央アジア、ヨーロッパと極めて広域にわたり、その数1200ヵ所以上にのぼる。抑留者は、戦争で荒廃したソ連経済を立て直すため、各地において劣悪な環境のもと、鉄道建設、森林伐採、炭鉱、土木建設などの重労働を強いられた。そして約6万人が二度と祖国の土を踏むことなく亡くなったという。

ソ連には日本人のほか獨ソ戦敗戦国のドイツ(200万人以上)、枢軸国であったハンガリー、ルーマニアなどの国々の捕虜も抑留された。

日本への集団引揚げは1946年(昭和21年)末に始まり、1956年(昭和31年)末まで続いた。この間に抑留者47万4千人が帰還したとされる。

舞鶴港の岸壁には『母』のみならず、肉親の帰りを待つ妻や家族ら、多くの涙がある。



◎参考文献:「あの戦争を伝えたい」(210.75/To46)開架書棚

「シベリア抑留」(210.75/Ku61)閉架書庫

「岸壁の母」(916/H38)閉架書庫

「戦後強制抑留史」(210.75/Se64/5)閉架書庫

「シベリアに逝きし人々を刻す」(210.75/Mu62)閉架書庫

—図書室から—

『目に青葉 山時鳥 初松魚』(めにあおば やまほととぎす はつがつお) 新緑のまぶしい時節となりました。大震災から一年余り、自然の脅威と闘いながら過ごす毎日ですが、日本には美しいものがまだ沢山あるのだと実感します。夏に向け、節電対策を考えながら、すがすがしい空気をいっぱい吸っておきたいと思うこの頃です。

* 1階資料公開コーナーのご案内

『65歳になった新憲法』と題して日本の民主化ポスターを7月8日(日)まで公開しています。ぜひご覧ください。

ぶらりらいぶらりい ~図書室にはこんな本があります~ NO. 145

2012年5月20日 発行/ 編集・発行 昭和館 図書室〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-1